



キー	機能
>	分数を入力
	帯分数を入力
>	度:分:秒を入力
	現在の結果を 分数や度の形式に変換

注意: 設定 にある [自動で分数に変換] をオンにすると、自動的に分数の形式にします。

例

分数・帯分数

↓ 下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



例

分数・帯分数

CAL DEG
3.25
 $3^{\circ} 15' 0.00000''$

F1 3 . F2 2 F2 5 = #↔# #↔# #↔#

CAL DEG
 $2^{\circ} 45^{\circ} 15^{\circ} - 1^{\circ} 15^{\circ}$
 $1^{\circ} 30' 15.00000''$

F1 2 0''' F1 4 F2 5 0''' GRP 1 F2 5 0'''
GRP 1 0''' GRP 1 F2 5 = #↔# #↔# #↔#



キー	機能
Shift↑ > #↔□	記法/進数ボックスをポップアップ

Number Conversion Back

Notation

3.25E2	SCI
325E0	ENG

Degree

325° 0' 0.00000"

Mathematical

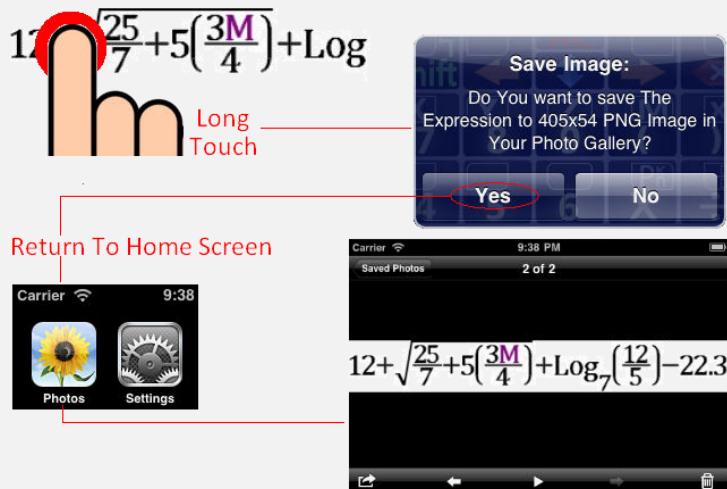
1 01000101	BIN
505	OCT
1 45	HEX

Digital: Integer 16 Bits

記法/進数ボックス



キー	機能
	履歴をブラウズ
	式を分割
	取り消し(30回まで)
	やり直し(30回まで)
	左結合
	右結合



画面を長押ししてコピー/ペーストおよび書き出し

↓ 下へスクロールすると、さらに例を見るることができます。



例

式の分割

CAL DEG
2+3;Res+2
7

FX 2 + C_A 10 3 ; Res + C_A FX 2 =

上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式が $2+3$ を計算し、次の式でその結果に 2 が加算されます。

注意:Res は最後の計算の結果が入ります。

CAL DEG
 $X \leftarrow 5; X+5$
10

X ← F2 5 ; X + C_A F2 5 =

上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式で X に 5 を代入し、次の式が $X+5 = 10$ を計算します($X = 5$ として)。

左/右結合

CAL RAD
 $5\sqrt{ }$

#→□

CAL RAD
 $\sqrt{5}$

左にある数(または式)を平方根関数の中に入れます。

CAL RAD
| 55 |

□←#

CAL RAD
| 55 |

右にある数(または式)を絶対値関数の中に入れます。



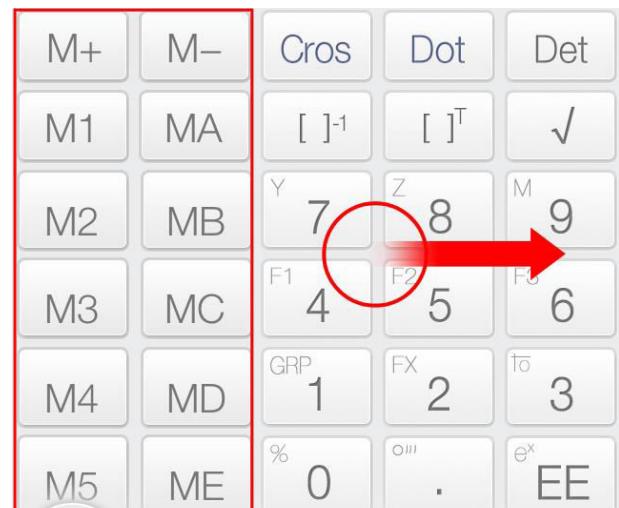
一般的な変数

X Y Z M
7 8 9

X, Y, Z, M

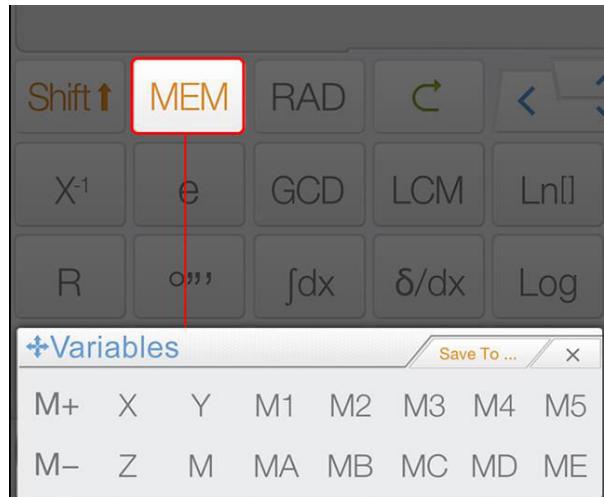
拡張変数

iPhone / iPod



キーボードを右へスワイプ

iPad



[MEM]キーを押す

結果変数(Res)



最後に計算された結果は Res メモリに収納されます。Res メモリの内容は、新しい計算結果が表示されるたびに更新されます。Res メモリを使うと連続して計算をするのに便利です。

注意：すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。

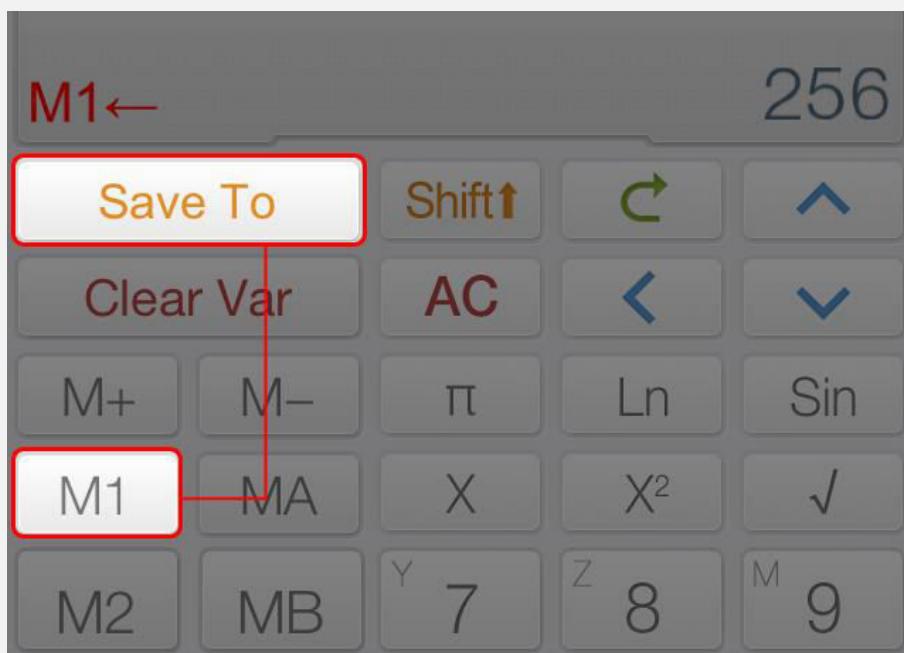
↓下へスクロールして変数の使い方を見てください。



ドラッグ & ドロップ: 値(計算結果)をドラッグして、変数キーにドロップすると、値を保存できます。



別の方法: [保存する:]を押し、続けて変数キーを押して、現在の値を変数に保存できます。





キー	機能
M+	表示されている値を M に加算する
M-	表示されている値を M から減算する
←	代入操作

例

代入

CAL RAD
M ← 10
10

Shift M 9 ← GRP 1 % 0 =

M に 10 を代入します。[Shift] + [9]が M キーであることに注意してください。

代入 & 式の分割

CAL DEG
X ← 5; X + 5
10

X ← F2 5 ; X + F2 5 =

上の式は内部に2つの式を持っています。最初の式で X に 5 を代入し、次の式が $X+5 = 10$ を計算します ($X = 5$ として)。



单変数の F(X)



$F_1(X) \ F_2(X) \ F_3(X)$

変数が2つである F(X,Y)



$F_2(X, Y) \ F_3(X, Y)$

変数が 3 つである F(X,Y,Z)



$F_3(X, Y, Z)$

Fx 関数を割り当てる

$2X+5$



手順1:

Xを使った式を入力する

手順2:

[Shift] + [2] (Fx キー)を押す

手順3:

割り当てる関数を選ぶ

注意:

すべての変数は行列・ベクトルモードと複素数モードで独立しています。

すべての Fx は計算機モードのグラフ Fx 方程式と同期しています。



キー



OR

Shift↑

+

=



;;;

機能

“=”記号を入力

方程式を解く
(普通に押す)方程式を
連立1次式に分解する

例

一般方程式

$$\left(5x^2 - \frac{4}{3}\right) = 3x\left(\frac{x}{2} + 5\right)$$

連立1次方程式

$$5(x+y) = 15; y = 8(7+x)$$



キー	機能
> X^2 EQN Solve	2次方程式を解く
> X^3 EQN Solve	3次方程式を解く
> $\begin{cases} Y \\ X \end{cases}$ EQNs Solve	連立2元一次方程式
> $\begin{cases} X \\ Y \\ Z \end{cases}$ EQNs Solve	連立3元一次方程式

目的の方程式に合わせて適切なモードを選んでください。

↓下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



例

$$2X^2 - 3X + 5 = 0$$

EON RAD

5

$2x^2$	$-3x$	5
--------	-------	---

押していくキー

FX 2 = - F2 3 = F2 5

$$X+Y=2 \text{ & } X-Y=3$$

EON RAD

1X	1Y	2
1X	-1Y	3

=C2 3

GRP 1 = GRP 1 = FX 2 =
GRP 1 = - F2 1 = F2 3

注意:

すべての必要な係数を1つ1つ入力してください。係数をタップするか、[↑]または[↓]を押して選択し、値を変更してください。



単位変換



定数表

式に挿入

お気に入りに追加

コピー

変数に保存

閉じる



X Y Z M



$$1 = 1$$

単位変換の操作

注意: 現在の結果が、単位変換時の
対象に使用されます

↓下へスクロールすると、さらに例を見ることができます。



単位のカテゴリー

長さ	密度
面積	エネルギー
体積	電気量
質量	仕事率
速度	光量
角速度	放射能
加速度	データ
角加速度	時間
体積流量率	温度
圧力	消費燃料
力量	

合計:

21 のカテゴリー & 400 以上の単位



定数表

定数	説明	値
A ₀	ボーア半径	5.291772086E-11
A ₁	第二放射定数	1.438777000E-02
c	真空中の光の速さ	2.997924580E+08
e	素電荷	1.602176487E-19
e ₀	電気定数	8.854187817E-12
e _v	電子ボルト	1.602176565E-19
F	ファラデー定数	9.648534150E+04
F _C	フェルミ結合定数	1.166364000E-05
F _R	第一放射定数	3.741771530E-16
F _S	微細構造定数	7.297352570E-03
G	ニュートン重力定数	6.674280000E-11
gn	標準重力加速度	9.806650000E+00
h	プランク定数	6.626068960E-34
J	ジョセフソン定数	4.835978700E+14
J _C	ジュール定数	4.816000000E+00
k	ボルツマン定数	1.380650400E-23
k _C	クーロン定数	8.987551800E+09
L	ロシュミット数	2.651646200E+25
M	モル気体定数	8.314472000E+00
Me	電子質量	9.109382150E-31
Mn	中性子質量	1.674927211E-27
Moonacc	月面における重力加速度	1.620000000E+00
Moone	月面における脱出速度	2.380000000E+03
MoonMa	月の質量	7.350000000E+22
MoonMe	月の平均密度	3.343000000E+03
MoonMe	月の地球からの平均距離	3.844000000E+08
MoonR	月の半径	1.738000000E+06

↓下へスクロールすると、さらに定数を見ることができます。



定数	説明	値
mp	陽子質量	1.672621637E-27
mu	原子質量定数	1.660538782E-27
Na	アボガドロ定数	6.022141790E+23
R	リュードベリ定数	1.097373157E+07
s	シュテファン・ボルツマン定数	5.670320000E-08
sosa	大気中の音速(20°C)	3.430000000E+02
sosw	水中の音速(20°C)	1.402000000E+03
ST	ザックール・テトローデ定数	-1.151707800E+00
SunAcc	太陽の表面における重力加速度	2.740000000E+02
SunMa	太陽質量	1.989000000E+30
SunMe	太陽の平均密度	1.408000000E+03
SunP	太陽のエネルギー放出量	3.826000000E+29
SunR	太陽の半径	6.959900000E+08
t	セ氏温度	2.731500000E+02
u0	磁気定数	1.256637061E-06
vK	フォン・クリッツィング定数	2.581280744E+04
Vm	理想気体のモル体積	2.241399600E-02



方程式をプロット(グラフ化)する

キー	機能
Graph または +	現在の式をプロットする 注意: 最初に式を入力してください
OR	OXY ページを開く
キー	機能
	グラフを表示/非表示
スナップ	
移動	
拡大	
縮小	
削除	

注意: すべてのグラフ F_x 式は計算機モードの F_x と同期しています。

↓下へスクロールすると、例を見ることができます。



例

$$0.25X^2 - 5$$

手順1：
xを使用した式を入力する

Graph

または

Shift↑

+

GRP
1

手順2：

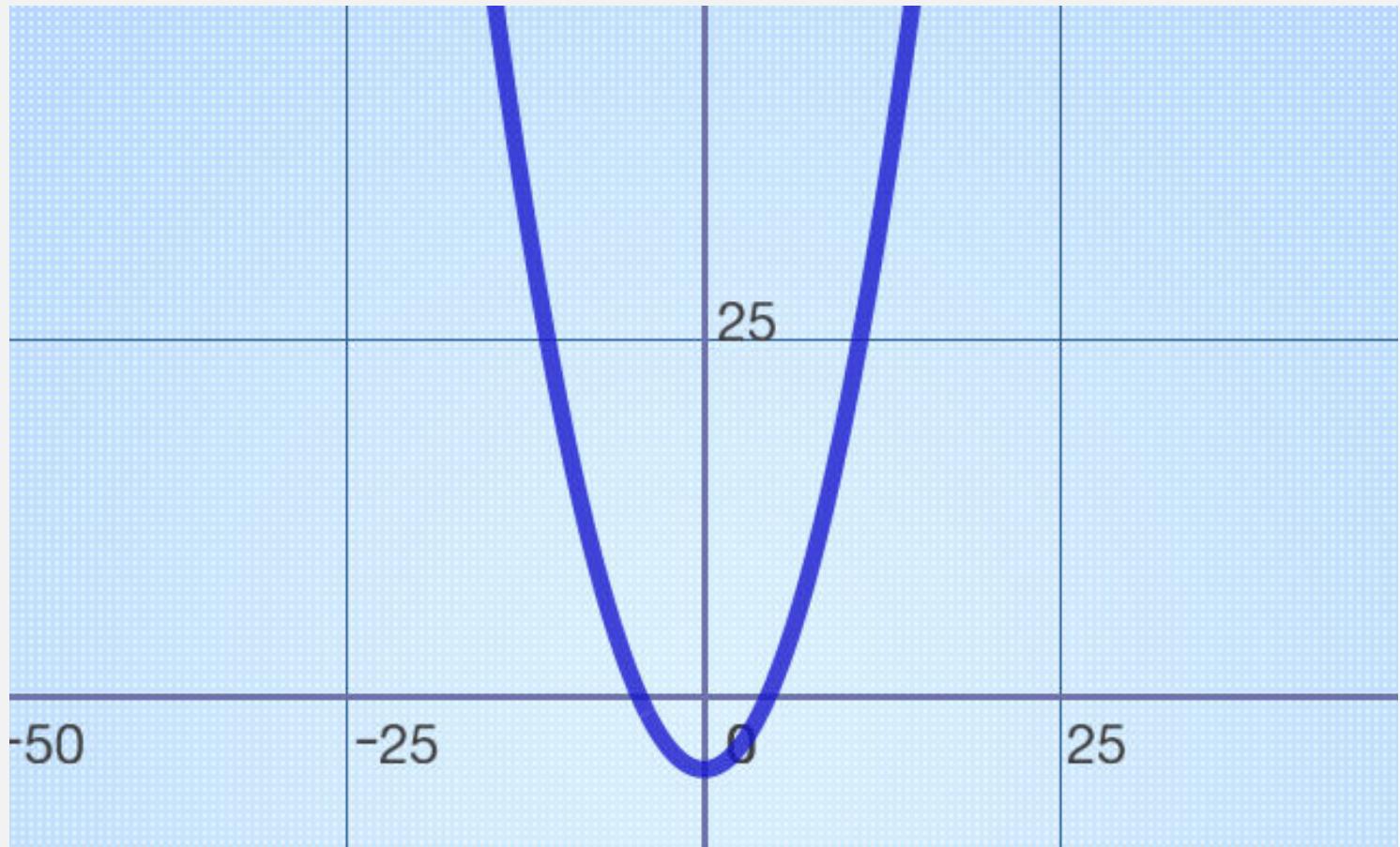
[Shift] + [1] (グラフ化)を押す

Graph Page Action

Plot as F1

手順3：

目的の関数を選択する





クラメルの公式(法則)を使って、N 元1次方程式を解きます。(N≤7 であること)

機能



Cramer

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}$$

$$\begin{aligned} 1X + 2Y + 3Z + 4T &= 5 \\ 6X + 7Y + 8Z + 9T &= 0 \\ 2X + 4Y + 1Z + 3T &= 5 \\ 5X + 7Y + 8Z + 9T &= 6 \end{aligned}$$



MAV DEG

CRR $\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 6 & 7 & 8 & 9 & 0 \\ 2 & 4 & 1 & 3 & 5 \\ 5 & 7 & 8 & 9 & 6 \end{pmatrix}$

[↓] (-6,4,1,0)

$$(X=-6, Y=4, Z=1, T=0)
が唯一の解になる$$

手順1:

行列・ベクトルモードに切り替える

手順2:

クラメルの公式に入る

手順3:

連立1次式を表す行列を入力する

手順4:

係数を入力する。

行列の各行が連立式の各方程式と一致する
ようにしてください。



Calculator∞は専門的な%計算をサポートします。これはよくある計算機の計算方法とは異なっています。

$$X\% = X \div 100$$

Example: 150 increase 30% = ?

$$150 + 30\% = 150.3$$



!!! Wrong Input !!!

$$150 + 150 \times 30\% = 195$$



Correct Input



入力された計算操作/関数/式の優先順序は、次の表に従って決められます。同じ優先順位の計算/関数/式の場合は、左から右へ実行されます。

順位	操作/関数/式
1番目	括弧内の式 (…)
2番目	特殊な表記の必要な関数 $\sqrt{x}, \sqrt[n]{x}, \log_a b, x , \frac{x}{y}, \int_a^b dx, C_n^k, P_n^k$
3番目	引数を取る関数で、閉じる括弧で終わるもの Sin, Cos, Tan, \sin^{-1} , \cos^{-1} , \tan^{-1} , Sinh, Cosh, Tanh, Log, Ln…
4番目	入力値の後に来る関数 $X^2, X^3, X^n, X^{-1}, X!, ^{\circ\prime\prime\prime}, d, r, g, \%$.
5番目	積算、除算 (\times, \div).
6番目	加算、減算 ($+, -$).



Calculator∞では、不等式は正式にはサポートされていません。しかし、グラフ化を使うと手軽に解くことができます。

最初に、すべての不等式は $F(X) > 0$ または $F(X) < 0$ の形に整理しておく必要があります。不等式の右辺を左辺に移項するときに -1 をかける必要があることに注意してください。

次に、 $F(X)$ を OXY ページにプロットします。 X 軸の上側または下側(不等式によります)の面が、不等式の解になります。

最後に、スナップツール  を使って解の領域を得ます。

例:

$$0.25X^2 > 36$$

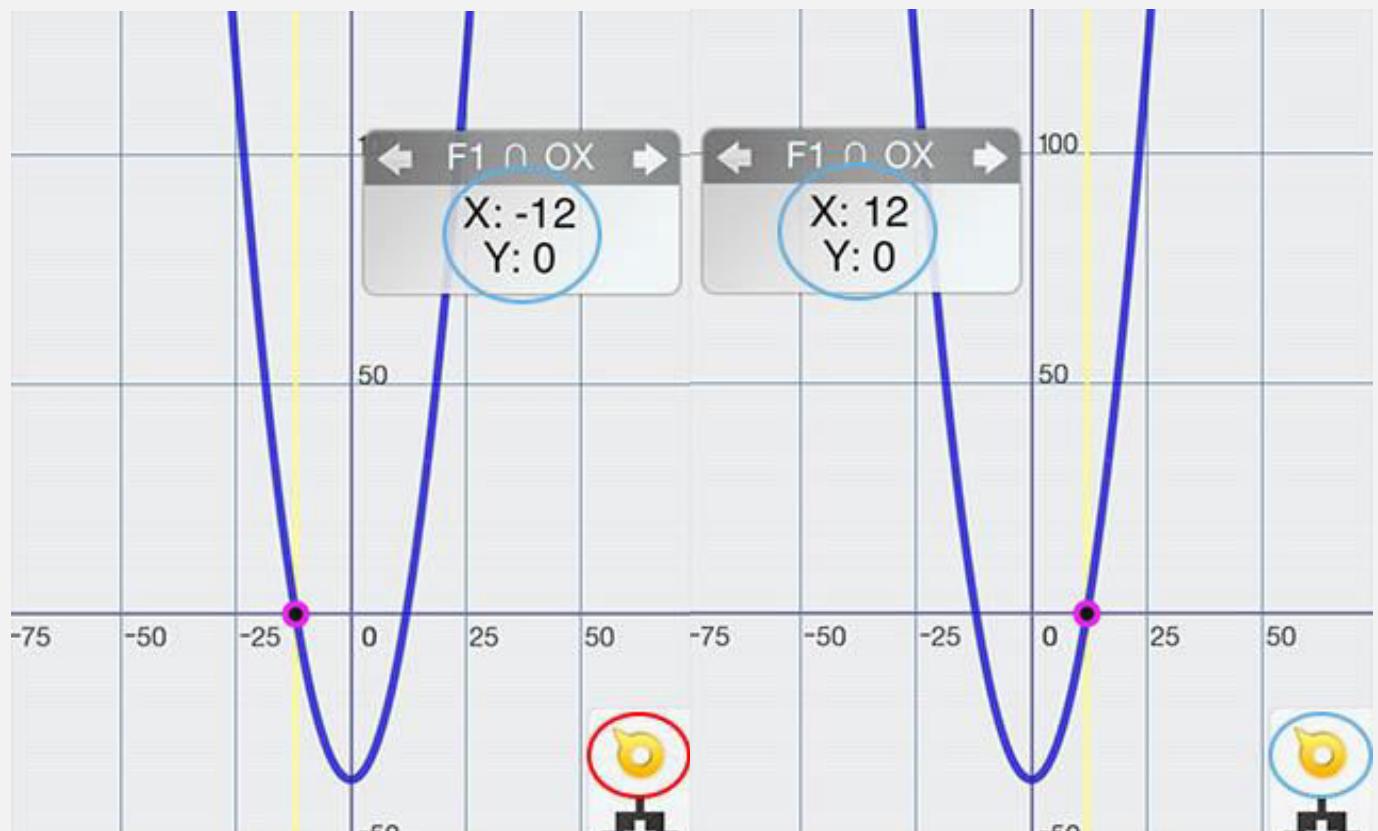
右辺を移項して、

$$0.25X^2 - 36 > 0 \text{ となり、}$$

$$F(X) = 0.25X^2 - 36 \text{ となる。}$$



$F(X) = 0.25X^2 - 36$ をグラフ化する



スナップツールを使って交点を求める

X 軸の上側の面が不等式 $0.25X^2 - 36 > 0$ の解です。
実際には X の値は $X < -12$ および $X > 12$ となります。